

平成 22 年 6 月 9 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19720044

研究課題名（和文） 長谷観音伝承の形成と展開に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic Study about Formation and Development of Hase Kannon's Folklore

研究代表者

横田 隆志（YOKOTA TAKASHI）

大阪大谷大学・文学部・准教授

研究者番号：90403211

研究成果の概要（和文）： 総本山長谷寺および神奈川県立金沢文庫等の国内研究機関で長谷観音伝承に関わる資料の書誌的調査を継続的に実施した。それらをふまえ、『長谷寺験記』の成立年代、後鳥羽院や興福寺と『長谷寺験記』との関わり、長谷観音を守護する童子や天神の位相などについて解明を進めた。さらに上記の研究論文に加え、2010年3月に発行した『現代語訳 長谷寺験記』（総本山長谷寺発行）では、本研究で得られた知見を随所にもりこみ、社会に対する、研究成果のより一層の還元をはかった。

研究成果の概要（英文）： A bibliographic survey about Hase Kannon's folklore has been conducted at Hasedera Temple and domestic research institutes like Kanagawa Prefectural Kanazawa-Bunko museum and so on. Based on it, I advanced the understanding about establishment age of Hasedera Genki, relationship between Hasedera Temple and Gotobain, Kofukuji Temple, characteristic of Douji and Tenjin, considered the protector of Hase Kannon. In addition to the above study also, I issued modern translation of Hasedera Genki (published by Hasedera Temple) in March 2010. I reflected the findings of this study around the book, and tried more to return findings of research to society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	360,000	2,760,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：中世文学

キーワード：中世文学、長谷寺験記、南都

1. 研究開始当初の背景

寺社は古典文学作品に描かれる舞台であるとともに、それ自身が文学を生み出す豊かな母胎だった。そうした関心から、多くの中世

文学研究者が寺社という場に注目してきた。しかし寺社での調査による新資料発掘・紹介が多く研究成果を生む一方、重要でありながら、中世文学における研究が意外に進んで

いない寺社も存在した。大和国（現在の奈良県）の著名な観音寺院である長谷寺はそうした寺院のひとつである。『長谷寺験記』をはじめとする長谷観音伝承関連文献の書誌的データの収集・整理、およびそれらをふまえた研究論文の蓄積はいまだ十分な状況ではなかった。

2. 研究の目的

如上の不足を補い、研究環境の一層の整備を図るべく、本計画では長谷観音伝承を対象とする研究を推進した。具体的には、(1) 長谷観音伝承と関わるテキストの書誌的調査 (2) 中世の文学作品等における長谷観音伝承関連資料の収集 (3) 様々な視点からの研究論文の蓄積を通じて、寺社と中世文学との交渉の一端を解明する基盤整備を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 『長谷寺験記』等の書誌的調査

課題を達成するため、『長谷寺縁起文』『長谷寺密奏記』『長谷寺験記』等の原本およびマイクロ資料等を所蔵する諸機関での調査を行った。対象は総本山長谷寺および国立文化財機構奈良文化財研究所・奈良国立博物館・神奈川県立金沢文庫・前田育徳会尊経閣文庫・国立公文書館内閣文庫等とした。

(2) 長谷観音伝承関連資料の収集

事例の検索と整理にあたっては、『長谷寺文献資料』（総本山長谷寺、1980）を基礎に、1980年以後に報告された新たな事例等を参照し、資料収集を行った。この作業は「4. 研究成果」に述べる研究成果の公表にあたって、きわめて基礎的な礎となった。

(3) 研究論文の執筆

2005年度以降、報告者は長谷観音伝承と関わる論考を1年に数本、継続的に発表してきた。しかしそもそも『長谷寺験記』がいつ成立したかという基礎的な問題、あるいは治天の君後鳥羽院や本寺興福寺との関わりなど、重要な論点が従来は議論されないままであった。本研究では、これらの問題に順次取り組み、その成果を公にした。

4. 研究成果

(1) 書誌的調査及び関連資料の収集

報告者は、総本山長谷寺および国立文化財機構奈良文化財研究所・奈良国立博物館・神奈川県立金沢文庫・前田育徳会尊経閣文庫・

国立公文書館内閣文庫等で『長谷寺縁起文』をはじめとする古写本の調査を実施した。とりわけ総本山長谷寺蔵『長谷寺縁起文』および金沢文庫蔵『長谷寺密奏記』を調査したこと、その結果『長谷寺縁起文』『長谷寺密奏記』がそれぞれの書物の最古本であり、記載内容や書承関係等の点においても非常に重要な意義を有することを改めて確認できたことは、本研究の推進にとって大きな成果と言える。

ただこれらの書物に関する研究論文や翻刻の公刊等は今後の課題として残った。本研究計画の実施を通じ収集した資料及び知見は、平成22年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「中世南都観音伝承の形成と展開に関する総合的研究」(課題番号22520212)で発展的に継承する予定である。

(2) 研究論文の発表

上記(1)で収集した資料及びその整理を通じ得られた知見をもとに、『長谷寺験記』の成立年代の比定、治天の君後鳥羽院や本寺興福寺と『長谷寺験記』との関わり、長谷観音を守護する童子や天神などについて解明を進めた。

『長谷寺験記』の成立年代については、従来、数十年にわたり鎌倉初期成立と理解されてきた。そして本書を通じ研究者が当該期の説話伝承の流布や宗教思想のありようを論じるさいにも、『長谷寺験記』鎌倉初期成立説が前提となってきた。しかし『長谷寺験記』の本文を精読すれば、鎌倉初期成立とは言えない内部徴証が認められ、その成立年代は十三世紀後半以降にまで引き下げることが妥当であることが判明した。

次いで後鳥羽院は、『長谷寺験記』では賢王として描かれておらず、むしろ長谷観音の冥罰を受けることが暗示される人物である。そうした叙述の背景を、承久の乱や後鳥羽院の側近だった興福寺僧、雅縁との関わりから解明した。

一方『長谷寺験記』は、本寺興福寺による末寺支配を正面から描かない。そればかりでなく、興福寺が近隣の大和武士等を動員して多武峰を焼き討ちした事件などに対し、長谷観音がそれをよしとしなかったなどの記述が認められる。こうした事実をもとに、現実の末寺支配に屈することのない、観音寺院としての独立した姿勢が『長谷寺験記』には認められることについて指摘を行った。

この他、観音を守護する童子に関わる叙述には中世の起請文と通底する思想が認められること、長谷観音と同体とされる天神の呼称「太政威徳天」がいかなる意味を有しその背景にどのような天神像の成立があったのかということなどを一連の論考において明

らかにした。

(3) 『現代語訳長谷寺験記』の公刊

ところで報告者は、2010年3月、総本山長谷寺より依頼を受けていた『現代語訳長谷寺験記』を公刊することができた。科研とはまったく別に受けた依頼であり、そのかぎりにおいては本研究計画の実施と直接の関わりをもたないが、本研究で得られた知見は本書の随所にいかされている。研究で得られた知見の社会への還元という意味では重要な成果と思われるので、特に明記しておきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 横田隆志、太政威徳天としての天神、勉誠出版編『アジア遊学』、査読有、131号「特集 古典化するキャラクター」、2010、35-45
- ② 横田隆志、『長谷寺験記』の成立年代、日本文学協会編『日本文学』、査読有、680号、2010、1-8
- ③ 横田隆志、『長谷寺験記』と興福寺、大阪大谷大学日本語日本文学会編『大阪大谷国文』、39号、2009、1-19
- ④ 横田隆志、天神のキャラクター—長谷寺の天神信仰を例として—、銘傳大學應用語文組編『銘傳大學 2009 国際學術研討会「應用日語學系語言與文化之研究・應用學術研討会」研討會論文集』、査読有、2009、3-10
- ⑤ 横田隆志、『長谷寺験記』後鳥羽院御幸説話考、東京大学国語国文学会編『国語と国文学』、査読有、第86巻第2号、2009、43-55
- ⑥ 横田隆志、長谷寺の善悪諸神、説話と説話文学の会編『説話論集』、査読有、16巻、2007、199-233

[学会発表] (計3件)

- ① 横田隆志、『長谷寺験記』の成立年代、日本文学協会第29回研究発表大会、2009年7月19日、静岡大学
- ② 横田隆志、太政威徳天としての天神、台湾大学日本語文学系所／台湾大学文学院、人間文化研究機構国文学研究資料館共催「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクト主催国際シンポジウム 2009年5月17日、(台湾) 台湾大学
- ③ 横田隆志、天神のキャラクター—長谷寺の天神信仰を例として—、銘傳大學 2009 国際學術研討会「應用日語學系語言與文化之研究・應用學術研討会」、2009年3月13日、

(台湾) 銘傳大學

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横田 隆志 (YOKOTA TAKASHI)
大阪大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：90403211

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：